



おおつち 大槌町営 大ケロ一丁目住宅

施工地／岩手県上閉伊郡大槌町
大ケロ一丁目1
竣工年月／平成25年8月
敷地面積／12,708m²
延床面積／4,047m²
構造／木造長屋1～2階建(12棟)
戸数／70戸
1DK:27戸
2DK:17戸(車椅子対応4戸)
3DK:20戸
4DK:6戸

忘れてはならない記憶

岩手県沿岸南部に位置する大槌町は、東日本大震災の津波により住宅地・市街地面積の約50%に当たる4km²が浸水し、町内全家屋の60%に当たる約3,800棟が全壊または半壊となり、町の中心部で発生した火災も被害を拡大し、犠牲になられた方々は行方不明者を含めて1,200人を超えた多大な被害を受けました。震災直後は町内に数箇所の避難所が設けられ最大6,000人の町民が避難生活をしておりましたが、その後に整備された2,000戸を超える仮設住宅での仮住まいは、震災後2年7か月を経過した今もなお続き、被災者の生活再建はいまだ不透明な状況にあります。謹んで、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

平成25年8月に完成した大槌町営大ケロ一丁目住宅は、大槌町において初めて竣工した災害公営住宅で、独立行政法人都市再生機構が被災3県で計画している復興支援事業において初めて完成した事業です。復興まちづくりの初動期の事業において大槌町の再生のために今後の住まいづくりの指針的な役割を担いながら、被災者の生活再建と地域コミュニティの再生を図る施設としてその役割を果たします。



被災した町役場



建物に乗り上げた観光船



火災を受けた小学校

地域と融合する住まいづくり

豊富な山林資源と大槌川に接する豊かな水資源を有する当地域での新築計画においては、豊かな自然とともに歩んできた人々の営みの継承と周辺環境との調和に配慮する施設計画を行いました。外観は里山の風景や周囲の街並みになじむよう圧迫感を与えない木造長屋形式の低層和風建築とし、木造の軸組を強調した真壁風のデザインにより周囲に落ち着きある表情を与え、既存住宅と融合する地域のシンボルとして景観を形成しております。また、建設に用いた木材の約6割は大槌町産材(杉材)を使用し、地域の復興に地域の資源を最大限に活用する「大槌らしい住まい」を実現いたしました。



集会所



A棟(車椅子対応住戸)



G棟



K棟



J棟



新しいコミュニティの創出

震災で失われた地域コミュニティの再生に向け、住民が自発的に集い自然に交流が生まれる住環境づくりに努めました。団地の入口となる北西の角地には大ケロ地域との交流の場として集会場と広場を配置して地域との結びつきを強め、中央の広場には水遊びや散水に利用できる手押しポンプの井戸を設置し、井戸端会議などの日常的な団地内コミュニティを育みます。また、各棟の住戸構成として単身者や高齢者の入居が想定される1DKタイプの住戸が団地内で孤立することがないよう、ファミリー世帯層の2DKタイプなどに連接させて配置し、長屋住宅での世代・世帯の偏りがない交流を生む住戸構成といたしました。



中央広場



手押しポンプの井戸



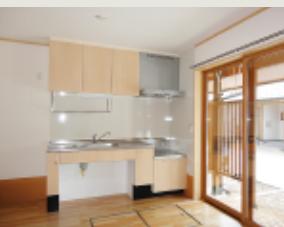
玄関

暮らしやすさへの配慮

高齢者や車椅子利用の居住者への配慮としてユニバーサルデザインに基づく住宅づくりを徹底いたしました。外部から玄関入口まではスロープを設け段差を解消し、住戸内には手すりを設置し、扉などの建具は引き戸とするなど入りしやすい計画といたしました。また、キッチンの流し台や浴室は車椅子対応の仕様とするなど安心して快適な生活が送れるよう細やかな配慮を行いました。



浴室



車椅子仕様流し台



和室